

2013年9月25日

2013年9月議会 一般質問

民主党・県政クラブの田辺一城です。政務調査に基づき、通告に従い、一般質問をさせていただきます。今回は▽子どもの遊びの実態とその改善策▽子ども会育成会と青少年アンビシャス運動の活性化▽学校と家庭、地域の連携による子どもの体力向上——の3つのテーマを柱に、知事と教育長にお聞きします。いずれも相互に関連しており、知事と教育長におかれましては、青少年健全育成に関わる次年度の施策の展開につなげていただきたいと思います。

<子どもの遊びの実態とその改善策について>

「外で遊ぶ子どもの姿を見なくなった」——。地域を回っていると、こうした声をよく聞きます。私が小学生だった時代は約25年前ですが、放課後や休みの日は近所の公園に男の子も女の子も集まり、一緒になってカラーボールやカラーバットで野球をしていました。ある時は山の中を走り回り、ある時は大きな池や水路でザリガニを釣ったり、ちょうど今頃の季節になると稲が刈り取られた後の田んぼでサッカーボールを蹴ったり、栗を拾ったりもしていました。

私の地元・古賀市でも、たった四半世紀前の子どもの遊びの実態はこうでした。知事や教育長をはじめ人生の先輩の皆さんにとってはなおのことだと思います。本当に、ひと昔前まで、子どもは外で遊ぶことが当たり前でした。

ところが、子どもが外で遊ばなくなったという。この20年余り、古賀市は一部で宅地造成が進み、私が育った地域も田んぼがなくなったところがありますが、まち全体を見渡すと、山、川、海といった自然に恵まれ、田畑も広がっています。住宅地の中に公園もある。決して子どもが遊ぶ場所がなくなったとは思えません。むしろ私たちが遊んでいた場所で、子どもを見なくなっています。

子どもの健全な心身の育成にとって、外遊びは極めて重要です。2007年7月に日本学術会議が出した報告書でも、「外遊びの減少が子どもの身体活動量を減らし、それが運動能力、体力の低下を招く一因となっている。さらに友達関係を築く機会だけでなく、その方法を学ぶ機会すら失わせている」と指摘しています。

さて、体力の低下は全国的な問題ですが、特に本県の子どもの体力水準が低い事実は周知のとおりです。2012年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果は、この5年間でやや上昇傾向も見られるものの、小学校男女、中学校男女ともに全国平均値と比較して低く、下位に位置しています。

さらに長期で見ると、体力の低落がよくわかります。本県の10歳男子の50メートル走は、1971年に9秒だったのが、2007年には9秒4にまで遅くなっています。立ち幅跳び、ソフトボール投げを見ても同様であり、「走る、跳ぶ、投げる」という基本的な身体能力が確実に失われています。実感されている方もいると思いますが、多くの小学校の運動会を注意深く見て回っていると、走り方やバランスのとり方などで心配に思える子どももあり、これは先の日本学術会議の指摘にあるように外遊びの少なさと密接に絡んだ問題です。

その意味で、本県は極めて有意義な調査を過去に実施しています。もう12年も前になりますが、青少年アンビシャス運動をスタートさせた2001年、外遊びを含めた「子どもの遊びの実態」について、詳細な観察調査、意識調査などを行い、県内50地域で定点観測的に子どもの遊びの集団規模や遊び方、使っている遊具を調査し、生活意識、友達や近所の人との交流、どんな遊びをしているかなどについてアンケートを取ることで、本県の実態をつかんでいました。

この12年前の時点で、「放課後や休みの日によく遊ぶ場所」で最多の回答が、「自分の家の中」が70.0%、「友達の家」が65.5%と、圧倒的に「室内」が多い結果となっています。なお、「公園」は33.5%、「池、川、林」は9.4%と極めて少なく、とても「子どもは風の子」と呼べる状況にはないことが分かりました。なお、同じ質問が、青少年アンビシャス運動の10年を検証するためのアンケートでも設定され、「自分の家の中」が70.2%、「友達の家」が63.6%と厳しい現状に変化はないとみられます。

★そこで、まずお聞きします。「子どもの外遊び」の重要性について、知事としてどのように認識し、これらの調査結果をどのように捉えていますか。

さらに重要なのは、外遊びの少なさの背景です。これを分析し、対策を講じなければなりません。冒頭に申し上げたように、四半世紀前と比べて劇的に遊ぶ場所が少なくなったとは言えない地域ですら、外遊びを見る機会が減っていると実感されています。

本県の12年前調査では、「自分の家の中でよくする遊び」として、最多の回答が

「テレビ・ビデオ・DVD などを見る」で 60.7%、続いて「ゲームをする」が 57.0%でした。私は昨年 9 月定例会で、知事に対し、子どもの「ネット依存」対策を求めたところ、今年度から県の冊子「子育て応援団」を活用して親に対する意識啓発を強化していただき、深く感謝していますが、今回問題としている外遊びの少なさの背景にも、こうした環境変化が影響していると考えられます。ちなみに、12 年前調査では、「メール・インターネットをする」は 6.8%とまだ少数派にすぎず、なおのこと、いま現在の子どもの外遊びの少なさに与えている影響が懸念されます。

県内の学校現場の管理職や地域で子育てに取り組む親御さんたちからヒアリングをすると、情報通信機器の発達に加え、外遊びに対する「親の意識の低下」が必ず挙げられます。自分の子どもの身の危険を案じて、外遊びをすすめない、制限しがちになる「過保護化」の傾向。習い事は良いことだが、習い事ばかりをさせる傾向。ゲームやネットばかりしている子どもに注意をしない傾向……。私の子どもころにファミコンが登場しましたが、親から 1 日 30 分といった制限を付けられ、あとは外で遊んだものです。ところが、最近ははじめがついていない。数日前、屋外なのに、友だち同士とみられる女の子たちが、それぞれ手に持った携帯ゲーム機に興じている姿を目にして、驚きました。

★そこで、知事にお聞きします。本県として外遊びが少ないことの要因について、現状をどのように分析していますか。また、これまでアンビシャス運動としてどのような取り組みを行い、現状分析を踏まえ、どのように取り組んでいく必要があると考えていますか。

<子ども会育成会と青少年アンビシャス運動の活性化について>

さて、教育力向上福岡県民会議が策定した「福岡の教育ビジョン」は、外遊びの減少について、「子どもの遊びが集団から個へと変化していること」を一因として挙げたうえで、地域の集会所や公民館、学校などを利用した子どもの居場所としての「アンビシャス広場」を示しながら、地域の協力を得て取り組むことの必要性に言及しています。この点、私も異論はありません。

ただし、私はアンビシャス広場に加え、本県として、子ども会育成会の活動を忘れてはならないと思います。子ども会育成会に育ててもらった者の一人として、子どもの主体性を重視し、育成会がサポートする基本的な理念、ひとつの小さな地域単位が独立して活動するだけでなく、校区単位、市町村単位の「横の連携」も図る広域的な体制、地域の公民館・分館活動と一体となった年間行事への参加などは「地域にお

ける子育て」の原点だと思えます。しめ縄づくりなどの世代を越えた伝承、廃品回収やお宮の掃除といった日々活動、夏休みのラジオ体操、ソフトボール大会などを通じた地域ぐるみの一体感の醸成。親の意識の高い低いにかかわらず、子ども会に加入すればすべての親が何らかの形で活動に関わることになり、地域の子どもたちと接する機会が必ず生まれることは、「地域が一体となった子育て」のあり方として、極めて重要なものです。

しかし、近年、現場の実感として、「子ども会に加入する子どもが減った」「親が責任ある役をやりたくないの、子どもが高学年になると脱会させる」といった声を聞くようになりました。実際、この質問を前に、県教委を通じて調べると、驚くべき結果が初めて明らかになりました。福岡県子ども会育成連合会に加入する児童・生徒の割合が年々、相当のハイペースで減少しており、小学生を見ると、この 20 年間で、加入数が 12 万 7793 人から 6 万 2514 人に半減し、加入率も 62.1%から 41.5%と 2 割も減少しています。先ほど、外遊びの少なさの項で、「親の意識の低下」について指摘しましたが、「地域における子育て」を考えるうえでも、こうした実態はゆゆしきもので、本県として、積極的、主体的に対応しなければならないと考えます。なお、政令市でも減少傾向は顕著です。

先週末、私の地元の古賀市と、福津市、宗像市、新宮町のアンビシャス広場が連携した「しんぐう・こが・ふくつ・むなかたアンビネット」の取り組みで昨年 3 月に県から表彰されたメンバーの一人で、福津市の「つやざきアンビシャス広場」の推進員でもある橋内京子さんと意見交換をさせていただきました。やはり、親の意識の低下に懸念を示され、アンビシャス運動でも、子ども会育成会でも、それぞれの役割があり、地域が連携し、一体となって「全ての子どもたちに対策を打つ仕組みの確立」の必要性で考えが一致しました。そのうえで、こうした地域が一体となった子育てを進めるためには、知事が旗振り役として先頭に立つことが必要との提起を受けました。なお、アンビシャス広場に関しては、市町村における理解と取り組みに大きな開きがあり、地域間格差が生じている実態についても指摘があったことを付言しておきます。

★そのうえで、教育長にお聞きします。

第一に、本県では、子ども会育成会の加入者数と加入率が著しく減少している傾向にあります。その背景をどのように分析していますか。また、その分析に基づき、この減少傾向にどのように対応すべきと考えていますか。

第二に、子ども会育成会の活性化に向け、県教委としてどのように取り組み、同様に地域で子どもの健全育成に取り組むアンビシャス広場との協力をどのように図っていかうと考えていますか。

★さらに、知事にお聞きします。私は子ども会育成会の意義と役割は極めて重要なものと考え、同じく地域で健全育成に取り組むアンビシャス広場も高く評価する面があります。本県は各地域で、結果として両者が併存する中で、ともに取り組まなければならない状況に置かれています。そこで、地域に根ざした大きな活動である子ども会育成会やアンビシャス広場が協力、連携するなど「地域が一体となって進めること」が重要だと考えますが、子ども会育成会、アンビシャス広場のそれぞれの意義と役割を示したうえで、知事の考えをお聞かせください。

<学校と家庭・地域の連携による子どもの体力向上について>

最後に、教育現場における家庭、地域と連携した体力向上策を質します。

私は今回、外遊びの少なさから問題提起し、親の意識の低下、地域における子育てを取り巻く現状を取り上げました。そもそも論としては、家庭、地域における教育力の底上げが求められるものであり、学校現場だけに帰責するものではありませんが、それを承知の上で、残念ながら現実問題として「家庭、地域の不足を学校教育でカバーする」ことにも取り組まなければなりません。

子どもの体力向上について、教育長は6月議会の答弁で、わが会派の畑中茂広県議の質問に対し、「学校だけではなく、家庭、地域と連携して、運動の場や機会の情報を提供する必要がある」との認識を表明されましたが、県教委としては情報提供だけでなく具体的な連携のあり方を提示し、県内全域に広げていくべきだと考えます。

また、家庭、地域との連携を重視するのは、全ての子どもへの対策を講じることができるのが、まさに学校現場であるからです。本県の中学生の男女の総運動時間の分布を見ると、運動する生徒としない生徒の「二極化」が明確に表れています。1週間の総運動時間が60分未満の割合が男女ともに全国平均よりも高く、男子が10.6%、女子に至っては36.7%に上ります。全ての子どもの体力を向上させるためには、家庭、地域の現状を直視しながら、学校が果たす役割が極めて重要です。

★そこで、教育長にお聞きします。県教委として、体力向上のため、就学前から小・中学生の時期にどのように取り組むことが有効だと考えていますか。また、そのうえで、今後、県教委として、学校と家庭、地域が具体的にどのように連携し、体力向上に取り組んでいくべきだと考えているのか、教育長に明らかにしていただきたいと思えます。

以上、知事と教育長の真摯な答弁を求めます。よろしくお願いいたします。